

# 日本語とモンゴル語の初対面会話における自己開示の対照研究

## —相手からの質問による自己開示に焦点を当てて—

児玉七海(大阪大学大学院生)

### 1. はじめに

人間関係構築の過程において、初対面会話は避けて通ることができない。通常、初対面の状態では相手についての情報が少なく、互いの情報を交換しながら会話を進めていくと考えられる。このやりとりの中では自分自身の情報を他者に対して示す自己開示が行われる。自己開示には自発的に行われるものと相手からの質問により行われるものがある。この質問について、その行為自体に文化的影響があり、とりわけ日本文化では質問が「失礼」と捉えられる場合もあるという指摘もある(重光, 2020)。日本語と他言語の関係を考えると、モンゴル語は類型論的には日本語と非常に近く共通点が多いが、運用面ではあまり対照されておらず、明らかになっていないことが多い。本研究では日本語とモンゴル語の初対面会話を対象とし、それぞれの言語で相手からの質問によってなされる自己開示が何について、どの程度、どのようになされているのかを明らかにすることを目的とする。またその異同を考察することで、接触場面で注意すべき点について指摘する。

### 2. 先行研究

初対面会話に関する研究は言語学、言語教育の分野だけでも数多くなされており(三牧, 1999; 奥山, 2005; 重光, 2015 など)、日本語とその他の言語との対照研究もいくつか見られる。自己開示に関する研究はこれまで心理学、言語学をはじめとする分野で研究がなされている(榎本, 1997; Morton, 1978; Svennevig, 1999 など)。しかし、モンゴル語については、初対面会話、自己開示に関する文献のいずれも管見の限り見当たらない。また自己開示を扱った先行研究を見ると、会話の音声データを使った研究である全(2010)が自己開示をする話し手の発話のみに着目しているなど、自己開示の際の双方向のやりとりが十分分析されている研究は比較的少ないと考える。自己開示がどのようになされているのかを明らかにするためにはこれまでの研究では不十分であると考え、本研究では双方向のやりとりを分析する。

### 3. 研究方法

#### 3.1 データ収集の方法

分析には初対面会話の音声データを使用した。調査協力者は日本語母語話者、モンゴル語母語話者それぞれ初対面の男性同士のペア4組及び女性同士のペア5組で、19~26歳の大学生および大学院生である。調査の実施にあたり、調査協力者には調査の概要とデータの取り扱いについて説明し、書面で承諾を得た。その後「20~30分程度を目安に自由に会話をして、これ以上会話が続けられないと思ったら筆者に連絡してほしい。時間はそれより長くても短くても構わない。」と伝え、録音・録画を始めた後、筆者はその場から離れた。なお、調査は大阪およびウランバートルの大学で行った。

#### 3.2 分析方法

本研究における「自己開示」は先行研究の定義(榎本, 1997; 全, 2010; 岩田, 2015)をもとにし、「自分に関する情報や体験、考えなどを言語によって相手に伝えようとする行動」とする。ここでいう「自分」は自分自身のことのみを指し、例えば自分が所属するコミュニティの情報は含まない。また自己開示を「自発的な自己開示」と「相手からの質問による自己開示」の二つに大別し、後者について分析する。その際は質問への応答としての自己開示だけでなく、それに情報を付け加える自己開示も分析の対象とする。会話時間は15~120分程度であったが、本研究では会話開始から長くても30分までを分析対象とする。この30分は、奥山(2005)で初対面会話における質問の出現が20分ほどで安定していること、おおよそ30分で終わっている会話が多いことを考慮した。分析の際、まずは自己開示が行われている発話を抽出し、その中から質問

に対する応答が自己開示であるものを連鎖組織ごとに抽出した。それらの発話を内容、構造の面から分析した。

#### 4. 結果と考察

分析対象とした質問と自己開示は、大学に関連する内容が多かった。ここではどのように質問と自己開示のやりとりがなされているのかについて述べる。本研究で得られたデータから、相互行為の視点から自己開示の連鎖をまとめた Svennevig (1999), それに対して不足点を指摘した三牧 (2013) をもとにパターン化を行った。まず一方の話者が「自己開示要求質問」を行う。この話者を「質問者」と呼ぶこととする。その後自己開示要求をされた話者は要求に応える。この自己開示要求に応じる話者を「自己開示者」と呼ぶこととし、自己開示者の反応を Svennevig, 三牧をもとに 1) 最小限, 2) 発展, 3) 保留の三つに分類した。またその次の質問者の反応も同様に 1) 最小限の応答, 2) 発話の促し, 3) 自発的自己開示の三つに分けた。1) 最小限の応答は自己開示に対する理解や評価を示す最小限の反応で、自己開示者の発話を特に促さない。2) 発話の促しは自己開示者に対して何らかの形で自己開示を促している反応のことである。追加で質問を行うことのほか、自己開示者の発話を繰り返したり言い換えたりして理解を表示することでさらなる自己開示を促したり、聞き返しなどで自己開示者の発話の明確化を要求することでさらなる自己開示を促す。3) 自発的自己開示は質問者による自発的な自己開示である。ここまでの自己開示とそれに対する反応のプロセスは繰り返され、場合によっては複雑な連鎖を作っている。これらはあくまで本研究のデータ、分析の観点から行ったパターン化であり、初対面会話における自己開示全般について網羅したものではない。本稿では自己開示者が 1) 最小限と 2) 発展を行う事例について分析する。まずは 1) 最小限の事例をみる。

##### 事例1 【学年】

01	JF9	→今何回生((何年生))?	情報要求
02	JF10	今2回生です.	情報提供
03	JF9	→え:じゃあ,えすこい若い.	評価
04	JF10	hh	評価
05	JF9	hhhh(.) [hhhh]hhhhh	評価
06	JF10	[若いhh]	評価

JF9 が JF10 に対して学年を質問し、JF10 が「2回生です。」(02 行目) と最小限の応答で学年を開示する。それに対して JF9 は「若い」(03 行目) という反応を示し、04~06 行目では両者の笑いがみられるが、それ以上の自己開示はなされていない。笑いについて、04, 06 行目は JF9 が「若い」という評価をしたことに対する反応であり、「若い」に対しておかしさを感じていることを表していると考え評価の発話とした。05 行目の JF9 の笑いは JF10 の学年に対するおかしさを表していると考えられ、こちらも評価の発話と捉えた。

##### 事例2 【学年】

01	MF8	→odoo khed dügeer kurs gesen yum uu? 今何年生なの?	情報要求
02	MF7	odoo taw. 今5((年生)).	情報提供
03	MF8	→tögsönö gesen üg üü(.) [yuu yum uu, 卒業するってこと?(.) [あれなの,	情報要求
04	MF7	[tiin, ene jil tögsönö. [そう,今年卒業する.	情報提供

01 行目で MF8 が MF7 に学年を質問を行い、MF7 は「odoo taw. (今5.)」(02 行目) と最小限の自己開示を行っている。それを受けて MF8 は「tögsönö gesen üg üü (卒業するってこと?)」(03 行目) とさらに質問している。MF7 はこの質問にも最小限の自己開示を行い、その後は次の話題に移っている。モンゴルの大学も日本の大学と同様4年制が一般的である。03 行目の MF8 の質問は「5 (年生)」と聞いてそれが卒業年度ということなのかを確認する意味があったと考えられる。自己開示について、事例1と同様質問内容が客観的事実についてであり、一言で答えられたため最小限になったと考えられる。しかし質問者が理解や評価を示す発話をせず、追加の質問を行っている点が事例1と異なる。

続いて自己開示者の自己開示が 2) 発展である事例をみる。

##### 事例3 【専攻言語】

01	JM4	→↑どうして日本語専攻を選んだんですか?	情報要求
02	JM3	浪人してる[ときに:,	情報提供
03	JM4	[うんうん.	継続支持
04	JM3	その:日本語:なんか何:語でっていうこだわりは[なかったんですけど:,	情報提供
05	JM4	[↑ふ::ん.	理解
06	JM3	なんか日本語の方が突っ込みどころが[あるかな:と思って.	情報提供

07	JM4	〔 あ° ,確かに:.	理解
08	JM3	はい.	承認
09	JM4	→日本語専攻授業面白いですがもんね:.	評価
10	JM3	そう-	
11	JM4	なかなかあの2年生だから多分概論:の授業は[たくさんあると思うん-	意見提示
12	JM3	[あ,	
13	JM4	→あれ面白いなってすごい思ってる;	意見提示

(そのままのターンで JM4 が別の質問をする.)

01 行目で JM4 は JM3 が大学の専攻としてなぜ「日本語専攻」を選んだのかを質問している。JM4 は「日本語専攻」ではない。それに対して JM3 は 02, 04, 06 行目で「突っ込みどころがあるかな:と 思っ て。」(06 行目) と他の言語ではなく日本語を専攻言語として選んだ理由を開示する。質問者である JM4 は理解を示す発話をし、授業が「面白い」(09, 13 行目) と日本語専攻に対する肯定的な評価を示している。JM3 は JM4 の評価に対して 10, 12 行目で何か発話しようとしているが、ターンを取れていない。JM4 は 13 行目以降 JM3 に別の質問をしており、この話題は終わっている。

#### 事例4【専門】

01	MF1	→A-IS-d yuu, angli kheleer gesen te, yaagaad angli kheleer surakh bolson be, bas yaagaad A-IS-iig songoson? A 大で何, 英語をって言ったよね どうして英語を勉強することになったの?それと, どうして A 大を選んだの?	情報要求
02	MF2	yostoi medekhgüi. arwan khoyort nögöö neg arwan jil tögschikhööd l, tegeed l yaagaad ch yum A-IS-d ormo gej bodood, öör surguuli murguulid yeröösöö neg ikh бүртгүтүлээгүй. 全然わからない. 12 年でその, 10 年((義務教育期間のこと))を卒業して, それでなぜか A 大学に入ろうって思って, 他の大学とかには全く登録しなかった.	情報提供
03	MF1	nkhn. うん.	継続支持
04	MF2	orchikh baikh aa l geed l tegsen, yag orchikhson. 入るだろうと思って, あれして, うまいこと入った.	情報提供
05	MF1	nkhn. うん.	継続支持
06	MF2	tegeed orj baigaad l, angli khel yer n aimar kheregtei baikh gej(.)bodood, eej bid khoyor bodood, それで入ってから, 英語は一般的にすごく必要だろうって(.)思って, 母と私の2人で思って,	情報提供
07	MF1	nkhn. うん.	継続支持
08	MF2	tegeed angli kheleer surakhaar bolood, tegeed manai A-IS bolokhoor nögöö neg ekhnii neg jildee yerönkhii suuri yuu surch baigaad, それで英語を勉強することになって, それで私たち A 大はその, 初めの1年に基礎科目を何, 勉強して,	情報提供
09	MF1	nkhn. うん.	継続支持

(中略. MF2 が学部の中での専門を選んだ経緯を話す.)

10	MF2	yer n neg ikh aimar bodoj tölöwlöj khüsej baigaagüi zügeer, 基本的にそんなにすごく考えて計画して志望してなくてなんとなく.	情報提供
11	MF1	aa zügeer yer n. ああなんとなく.	理解
12		ursgalaaraa l yer n songochikhii doo gej bodood l. 基本的に流れのまま選んじゃおうって思って.	確認要求
13	MF2	nn. んん.	確認
14	MF1	→aan. odoo tegeed kher baina yer n ingej songosondoo kharamsakhgüi baina uu, hehe. ああ. 今それでどう?こうやって選んだことに後悔してない?へへ.	情報要求
15	MF2	nn. んん.	保留
16	MF1	yer n zügeer goi l baina uu te, gaigüi l- 基本的に普通(いゝ)のかな?悪くない-	情報要求
17	MF2	yer n bol angli khel bol zügeer baigaa. 基本的には英語は大丈夫.	情報提供
18	MF1	akhaan.	継続支持

19	MF2	うん。 gekhdee nögöö neg salbar malbar dotroo songoson mergejil maan jaakhan taalagdakhgüi baigaa, ternees busdaar bol, でもその学部とかの中で選んだ専門がちょっと合わない, それで他のやつは,	情報提供
20	MF1	aan. ああ.	理解

(後略. MF2 が今の専門と自分の性格が合わず苦労していることを話す.)

事例3と同じ大学の専門を選んだ理由についてのやりとりだが, 事例3と異なるのは質問者が一つのターンで二つの質問をしている(01行目)点, 自己開示者による自己開示に対して10行目で少し否定的な側面からの質問をしている点である。事例3では逆に自己開示に対して肯定的な評価が現れていた。MF1が否定的な質問をしたのはMF2が「yaagaad ch yum (なぜか)」(02行目), 「zügeer (なんとなく)」(10行目)現在の大学に入ろうと思って受験したという自己開示内容が原因であると考えられるが, 類似の自己開示内容であっても直接的に「後悔して」いるかどうか, などの質問がなされている事例は日本語のデータにはみられなかった。自己開示者であるMF2は15行目では答えを保留するが, MF1の再質問(16行目)によって17行目以降, 「jaakhan taalagdakhgüi (ちょっと合わない)」(19行目)と専門について思うところを開示している。自己開示が「最小限」の場合と「発展」の場合を比べると, 自己開示が「発展」となる時には質問に「どうして」といった疑問詞が使われており, それに応えるためには最小限にならないのだと言える。

## 5. まとめ

日本語とモンゴル語の初対面会話においてみられる相手からの質問によって行われる自己開示の内容と構造について述べてきた。多くの内容や会話の大まかな流れは両言語で共通していたが, 個別に分析するとそれぞれの特徴があった。共通点は質問者の質問内容によって自己開示が「最小限」になるのか「発展」になるのかが変わるという点である。両言語の違いについて, 事例1, 2からは, 日本語でのみ評価の発話が現れ, モンゴル語には自己開示を受け止める発話が現れない場合があることがわかった。また事例3, 4からはモンゴル語会話では質問が一つのターンで二つ行われることがあること, 自己開示者の自己開示に対して少し否定的な質問がなされる事例が存在することがわかった。接触場面においては, 質問への応答に対する反応に違いがあること, 相手の自己開示への否定的な評価は必ずしも個人の性格からなされるものではないことに留意する必要があると考えられる。今後は同様の事例をさらに詳しく分析するとともに, 自発的に行われる自己開示についても分析する必要がある。また調査対象者を大学生以外に広げることで全く共通項のない者同士の初対面会話の自己開示についても知る事ができ, 研究の余地がある。

## 参考文献

- 榎本博明(1997). 自己開示の心理学的研究 北大路書房
- 岩田祐子 (2015). 日・英語初対面会話における自己開示の機能 日・英語談話スタイルの対照研究-英語コミュニケーション教育への応用- ひつじ書房 pp37-91
- 全鍾美 (2010). 初対面の相手に対する自己開示の日韓対照研究-内容の分析からみる自己開示の特徴- 社会言語科学, 13(1), 123-135.
- 三牧陽子 (1999). 初対面会話における話題選択スキーマとストラテジー-大学生会話の分析- 日本語教育, 103, 49-58.
- 三牧陽子 (2013). ポライトネスの談話分析-初対面コミュニケーションの姿としくみ- くろしお出版
- Morton, T. L. (1978). Intimacy and reciprocity of exchange: A comparison of spouses and strangers. *Journal of Personality & Social Psychology*, 36, 72-81.
- 奥山洋子 (2005). 話題導入における日韓のポライトネス・ストラテジー比較-日本と韓国の大学生初対面会話資料を中心に- 社会言語科学, 8(1), 69-81.
- 重光由加(2015). 日・英語の男性初対面母語会話に見られる応答要求発話 日・英語談話スタイルの対照研究-英語コミュニケーション教育への応用- ひつじ書房 pp93-134.
- 重光由加 (2020). 質問に伴う配慮-初対面会話と親しい者同士の男性の雑談より- 日本語の自然会話分析-BTSJ コーパスから見たコミュニケーションの解明- くろしお出版 pp85-111.
- Svennevig, Jan(1999). *Getting Acquainted in Conversation: A Study of Initial Interactions*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.